

## IEA重要鉱物・グリーンエネルギー・サミット

### 高村政務官 発言

(セッション3「透明性のある持続可能な責任あるサプライチェーンの確保」)

(2023年9月28日 16:00 - 17:30 (於:IEA 事務局))

●クリーン・エネルギー移行に必要な重要鉱物への国際的な関心が高まる中、IEAによる本会合の開催は時宜を得たものです。開催に感謝します。

●各国が脱炭素化に向けた取組を進める中、再生可能エネルギー機器の原材料となる重要鉱物の需要は今後急増することが見込まれており、その安定供給の確保が課題です。

●日本は、G7議長国として、この問題への対応を主導してきました。G7広島サミットでは、G7内外の信頼できるパートナー国との間での強靱なサプライチェーンネットワークを構築及び強化するにあたり、透明性、多様性、安全性、持続可能性、信頼性からなる「強靱で信頼性のあるサプライチェーンに関する原則」が不可欠な原則であることを発表するとともに、「G7クリー

ン・エネルギー経済行動計画」を発出し、重要鉱物の強靱なサプライチェーンの確立に向けた各種取組を明らかにしました。

●重要鉱物資源の安定供給の確保のためにサプライチェーンを多様化・強靱化していくにあたり、国際社会として、重要鉱物のサプライチェーンにおける環境、社会、ガバナンス(ESG)を強化していくことが重要です。

●ESG基準の遵守は、資源国における持続可能な開発への第一歩です。資源国におけるガバナンス能力を強化し、労働者の人権や周辺環境に配慮したESG基準を満たす開発を行うことが、地元住民の利益を確保し、持続可能な開発につながります。

●我が国がメンバーである鉱物資源安全保障パートナーシップ(MSP)は、本年2月の南アでの副大臣級会合にて持続可能な開発のためのESG基準を示したところです。

●また、現在、IEA重要鉱物作業部会でESG基準に係るル

ール・原則の明確化に向けた取組が進められていると承知しています。IEAに必要なルールメイキングを促進する役割を期待します。

●他方、資源国の中には、技術的・能力的な限界から、ESG基準を実施することが困難な国もあるため、ESG関連の知見の共有が不可欠です。

●この観点から、先般のG7広島サミットにおいて、パートナー国や世銀等の国際機関と協働して、資源国向けのESG関連の技術支援及び能力構築を行うため、「強靱で包摂的なサプライチェーンの強化(RISE)に向けたパートナーシップを創設することを決定し、10月の世銀IMF年次総会の場にて立ち上げる予定です。

●同スキームを活用した支援を通じて、資源国が重要鉱物の中流部門(精錬・加工)等において、ネット・ゼロの実現に貢献しつつ、自国産業の多様化・高付加価値化を通じた持続可能な開発を推進し、重要鉱物のサプライチェーンを強靱化する

ことができると考えます。

●ESG基準を遵守することによって、資源国が国際社会からの投資を広く呼び込めることにつながる事が重要です。また、ESG基準を満たした資源国に対する投資(ESG投資)は、透明性のある市場を形成し、公平な競争条件の確保にもつながります。この点、例えば、精製過程における労働者の人権や環境を無視した生産により価格競争力の獲得がまかり通っては公正な競争は担保できません。

●先般のG7広島サミットでは、G7首脳は、重要鉱物に関する市場歪曲的な行為や独占的な政策への反対で一致しました。また、IEAの重要鉱物作業部会において、市場の透明性に関する勧告及び信頼性のあるデータの共有に向けた取組が進められていることを歓迎します。

●今後、こうした取組を通じて、重要鉱物の市場の透明性を高め、資源国への投資のさらなる呼び込みを後押ししていくべきです。

●重要鉱物の安定供給の確保に向けては、ESG基準の遵守、ESG投資の浸透及び市場の透明性向上が必要であり、今後、国際社会の一致した行動が求められます。

●日本は、重要鉱物の安定供給確保、クリーン・エネルギー移行に向けて、引き続き世界中のパートナーとの協力を深化させていきたいと考えています。

(了)